

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

圧迫性頸髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する多施設前向き研究

研究分担者 竹下 克志 所属機関名 自治医科大学整形外科
研究協力者 木村 敦

研究要旨 OPLL 症例を含む頸髄症患者における手術前後の転倒と、それに伴う自覚症状悪化の発生頻度に関して、多施設前向き研究を行った。手術予定の頸髄症患者に自記式の調査票を配布し、登録時から手術まで、および手術日から術後1年までの転倒の詳細とQOLの推移を調査した。平成30年10月までに全国8カ所の協力施設より、計161名の患者データ収集を終了した。現在データ解析を行っており、論文投稿の準備を進めている。

A．研究目的

頸髄症患者における術前後の転倒と、それに伴う自覚症状悪化の発生頻度を、前向き調査によってより正確に明らかにすること。

B．研究方法

平成27年10月に本学において研究計画に対する倫理委員会の承認を得て、計画書と調査用紙を協力施設に送付した。各施設における倫理委員会の承認後に、同意が得られた患者に調査票を配布し、術前から術後1年の期間でデータを収集した。

C．研究結果

平成29年10月までに全国8カ所の協力施設より計161名の患者が登録された。平成30年4月に術後1年以上経過した症例の診療情報やアンケート結果の回収を開始し、同年10月にデータ収集を終了した。現在データ分析を行っており、論文投稿の準備を進めている。

D．考察、

本研究によって、頸髄症手術患者の転倒とそれに伴う症状悪化の頻度に関して、より正確なデータが得られることが期待される。また本研究では転倒に関連する包括的なデータが得られており、後ろ向き研究よりも多面的な分析が可能となる見込みである。

E．結論

頸髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する前向き研究を実施した。予定されたデータ収集を終了し、現在投稿準備中である。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G．研究発表

1. 論文発表

1. 圧迫性頸髄症手術前後の転倒による症状悪化

木村 敦

整形外科 (0030-5901) 69 巻 6 号

Page635-639

2. 学会発表

頸椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術後の体の痛みに K-line が与える影響の検討

木村 敦、白石 康幸、井上 泰一、遠藤 照顕、竹下 克志、日本脊椎脊髄病学会、神戸、2018/4/12 .

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。